

日本災害情報学会第 25 回学会大会 大会プログラム



令和 4 (2022) 年 10 月 8 (土)・9 日 (日)
会場：日本大学 三軒茶屋キャンパス 1号館

◎10月8日(土)		
09:30	開場・受付開始	[1F ロビー]
10:00-10:15	開会式	[1310 教室]
10:25-11:50	口頭発表 (セッション 1)	[1308 教室・1309 教室・1310 教室]
12:50-14:15	口頭発表 (セッション 2)	[1308 教室・1309 教室・1310 教室]
14:30-15:50	企画シンポジウム 「多様化する「避難」という 言葉について考える」	[1310 教室]
16:00-17:00	廣井賞表彰式	[1310 教室]
◎10月9日(日)		
09:30	開場・受付開始	[1F ロビー]
10:00-11:10	口頭発表 (セッション 3)	[1308 教室・1309 教室・1310 教室]
11:20-12:30	口頭発表 (セッション 4)	[1308 教室・1309 教室・1310 教室]
13:30-16:30	シンポジウム 「オールハザード・アプローチ からみた危機管理と防災」	[1310 教室]
16:30-16:45	閉会式	[1310 教室]

【参加方法・参加費など】

	正会員 (名誉会員・ 賛助・購読会員含む)	学生会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
大会参加費	4,000 円	2,000 円	8,000 円	4,000 円

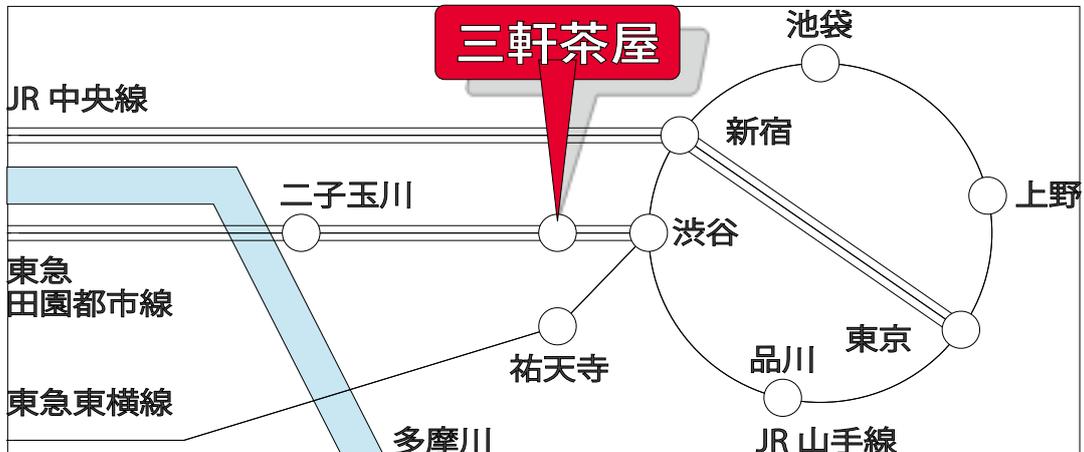
- 参加をご希望される方 (座長・発表者を含む) は STORES の URL からチケットを購入してください。
STORE の URL は近日中に学会ホームページにて公開いたします。
- 購入後、登録したメールアドレスにチケット (PDF) が届きます。
- 現地参加される方は、受付でチケットの提示 (電子または印刷したもの) をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、現地での参加費の支払いはご遠慮ください。
- 領収書は後日、学会事務局よりメールにてお送りいたします。
- 予稿集の URL もチケットに記載されています。
- 企画シンポジウム・公開シンポジウムの詳細は追ってウェブサイトに掲示いたします。

不明点は、学会大会実行委員会・研究発表担当宛 (東京大学 大津山 堅介) にご連絡ください
jasdis.taikai@gmail.com

【大会会場案内（アクセスマップ）】

会場：日本大学三軒茶屋キャンパス 1号館（3階）

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-34-1



日本大学危機管理学部ウェブページより参照

東急東横線「祐天寺」駅から東急バスで10分「日大前」下車
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車，徒歩約15分

※会場は1号館のみとなります。会場へは1号館正面入口からお入りください。

【学会に参加する全員の方に対する諸注意】

- 今回の学会大会は、現地開催のみとなります。
なお現時点では状況に応じてハイブリッド形式への変更の可能性は排除しません。
- チケットの購入はなるべく事前に行ってください。
大会参加受付は、会場1階ロビーとなります。
会場にお越しの際は、受付にてチケット（電子または印刷したもの）を提示し、会場内にお入りください。
- 受付にてアルコール消毒、検温を行います。マスクの着用等感染拡大防止のマナー徹底をお願いいたします。
- 飲食は1階の学生ホール、または教室内のみをお願いいたします。
- 会場近隣ではコンビニエンスストアを除き飲食店は限られますので、両日ともに昼食の予約を受け付けます。
支払いや予約手続きは上記の URL (STORES) をご参照ください。
- 会場はすべて禁煙です。
- 現地のネットワーク回線は Eduroam が利用可能ですが、施設で提供する Wi-Fi はありません。
- 学会大会で使用する（指定された）会場以外の会議室等には、絶対に入室しないでください。
- 発生したごみについては、各自でお持ち帰りいただくようお願いいたします。
- 貴重品の管理は各自の責任においてお願いいたします。万が一、盗難等の被害が発生しても、大会実行委員会では一切の責任を負えません。
- 懇親会は実施しません。

【口頭発表される方全員に対する諸注意】

- 発表1件につき、10分発表+5分質疑です。各セッションの最後に10分の総合討論の時間を設けます。
なお、時間経過は以下のタイミングでお知らせしますが、念のため、お手元等でも計測をお願いします。
 - 8分 1鈴
 - 10分 2鈴（発表終了）
 - 15分 3鈴（質疑応答終了）
- 質疑応答中は、画面共有のまま（スライドが見える状態）でお願いします。
- 発表者の際は、スライドショーのレーザーポインタ機能をお使いください。
- 動画を流す場合は、なるべくパワーポイントに埋め込む形にしてください。

お困り、緊急時の際は、以下まで連絡をください。

学会大会実行委員会・研究発表担当（東京大学 大津山 堅介） jasdis.taikai@gmail.com

●発表スケジュール（簡易版）

10月8日（土） 9:30 開場・受付開始

	1308 教室 (A 会場)			1309 教室 (B 会場)			1310 教室 (C 会場)		
	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長
10:25~11:50 セッション1	5	A1 防災 教育①	佐藤 翔輔	5	B1 情報 収集・共有	平山 修久	5	C1 火山・ 避難意思決定	及川 康
12:50~14:15 セッション2	5	A2 防災 教育②	高原 耕平	5	B2 避難 情報①	照本 清峰	5	C2 リスクの 可視化	倉田 和己

10月9日（日） 9:30 開場・受付開始

	1308 教室 (A 会場)			1309 教室 (B 会場)			1310 教室 (C 会場)		
	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長
10:00~11:10 セッション3	4	A3 コミュニ ティと防災	城下 英行	4	B3 避難情 報②	本間 基寛	4	C3 被害把握・ リスク評価	牛山 素行
11:20~12:30 セッション4	4	A4 歴史と 思想	小林 秀行	4	B4 訓練・ 地域防災	金井 昌信	4	C4 災害対応	武村 雅之

●発表スケジュール（詳細版）

1308 教室

10月8日（土）10:25～11:50 セッション1

A1 防災教育①（座長 佐藤 翔輔）

A1-1 大阪府内の幼児を対象とした防災教育の現状調査

- 徐 洋（関西大学大学院社会安全研究科）
- 城下 英行（関西大学社会安全学部）

A1-2 幼児期を対象とした地震リスクへの「気づき」をもたらす絵本教材の開発と利活用の提案

- 兼松 幸代（アシストコム）
- 倉田 和己（名古屋大学減災連携研究センター）
- 蛭川 理紗（名古屋大学減災連携研究センター）
- 護 雅史（名古屋大学災害対策室）
- 新井 伸夫（日本気象協会）

A1-3 小学校における地震・津波発生メカニズムの取り上げ方に関する研究

- 被災地で用いられる副読本に着目して -

- 長島 雄介（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- 阪本真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）

A1-4 特別支援学校における防災教育の現状と課題

—知的障害のある児童生徒への関わりに焦点を当てて—

- 西村裕美子（兵庫教育大学学校教育研究科人間発達教育専攻）
- 河田 慈人（ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター）

A1-5 直接的に防災と接点のないフィールドからアプローチする防災啓発の一形態

: ヤフー防災模試を活用したソナエル Japan 杯の事例研究

- 佐藤 翔輔（東北大学災害科学国際研究所）
- 安田 健志（ヤフー株式会社）
- 津村 翔士（HITOTOWA INC.）

10月8日（土）12:50～14:15 セッション2

A2 防災教育②（座長 高原 耕平）

A2-1 水害教育におけるリスク教育と事前復興曲線を用いた災害ケア教育の比較検討

- 筒井 麗奈（香川大学創造工学部）
- 竹之内健介（香川大学）

A2-2 小中学校における地震を想定した避難訓練の改善に関する実践的研究

- 小倉 優志（群馬大学大学院理工学府）
- 金井 昌信（群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター）

A2-3 小中学校における防災学習の家庭防災への効果—防災研究会「学防ラボ」の活動を通して—

- 松原みなみ（愛知工業大学大学院工学研究科）
- 山田 純平（愛知工業大学大学院工学研究科）

石川慶一郎 (愛知工業大学地域防災研究センター)
落合 鋭充 (株式会社エーアイシステムサービス)
野澤 英希 (愛知工業大学工学部建築学科)
横田 崇 (愛知工業大学地域防災研究センター)

- A2-4 感染経験と実戦知を組み込んだ新型コロナ対応に関する教育教材
ー防災ゲーム「クロスロード新型コロナ家庭内感染防止編」ー
○曾川 剛志 (西宮市立夙川小学校)
恒吉 泰行 (西宮市立高木北小学校)
矢守 克也 (京都大学防災研究所)

- A2-5 学生寮における防災意識の向上と課題
○上久保祐志 (熊本高等専門学校企画運営部)
木原久美子 (熊本高等専門学校生物化学システム工学科)
川尾 勇達 (熊本高等専門学校リベラルアーツ系)
脇中 康太 (熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科)

10月9日(日) 10:00~11:10 セッション3

A3 コミュニティと防災 (座長 城下 英行)

- A3-1 アフターファイブでの防災コミュニティの活動から見えた一般的な行政機関の課題
・要因と解決の方向性 -ミクロな平時の防災業務の改善事例を踏まえて-

○竹 順哉 (よんなな防災会)
岩垣津信太郎 (よんなな防災会)
多田 明世 (よんなな防災会女子部)
森下 美穂 (よんなな防災会女子部)
杓子尾 駿 (よんなな防災会)
植竹 香織 (よんなな防災会)

- A3-2 ボトムアップ的発言を促す場の条件の研究概観 ー事前復興計画に関する研究を例にー
○杉山 高志 (東京大学生産技術研究所)
矢守 克也 (京都大学防災研究所)

- A3-3 共同性再興における祭祀の意味 ～福島県双葉郡浪江町の事例を通じて～
○葛西 優香 (東日本大震災・原子力災害伝承館、東京大学大学院学際情報学府)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

- A3-4 「防災」が変化する時ー和歌山県印南町の取り組みから
○城下 英行 (関西大学社会安全学部)

10月9日(日) 11:20~12:30 セッション4

A4 歴史と思想 (座長 小林 秀行)

- A4-1 日本における災害ボランティア活動の歴史とこれからの展望
○浅倉 大地 (国土館大学防災・救急救助総合研究所)

A4-2 防災に役立つ「自然」理解は存在するか

○高原 耕平 (人と防災未来センター研究部)

A4-3 「測りすぎ」からの解放

○矢守 克也 (京都大学防災研究所)

A4-4 想起の場における「痛み」の回避

○小林 秀行 (明治大学情報コミュニケーション学部)

1309 教室

10月8日(土) 10:25~11:50 セッション1

B1 情報収集・共有(座長 平山 修久)

B1-1 小型 SAR 衛星を用いた浸水域の迅速な把握手法の検討

- 飯田 久美 (株式会社パスコ)
- 寶楽 裕 (株式会社パスコ)
- 木村 篤史 (株式会社パスコ)
- 三富 創 (株式会社パスコ)

B1-2 SIP4D 利活用システムをベースとした実動組織用の災害情報共有システムの研究開発

- 伊勢 正 (防災科学技術研究所)
- 磯野 猛 (防災科学技術研究所)
- 大和田泰伯 (情報通信研究機構)
- 坂野 寿和 (国際電気通信基礎技術研究所)
- 久利 敏明 (情報通信研究機構)

B1-3 ポータブル SIP4D による公衆通信網途絶対策

- 久利 敏明 (情報通信研究機構)
- 大和田泰伯 (情報通信研究機構)
- 磯野 猛 (防災科学技術研究所)
- 坂野 寿和 (国際電気通信基礎技術研究所)
- 伊勢 正 (防災科学技術研究所)

B1-4 暴風雪・大雪の評価技術および冬期道路管理への活用に関する検討

- 原田 裕介 (土木研究所寒地土木研究所)
- 大宮 哲 (土木研究所寒地土木研究所)
- 武知 洋太 (土木研究所寒地土木研究所)
- 西村 敦史 (土木研究所寒地土木研究所)

B1-5 応急給水に係る情報共有による地域連携

- 平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)
- 木作 尚子 (名古屋大学減災連携研究センター)
- 野村 一保 (名古屋大学減災連携研究センター)
- 福和 伸夫 (名古屋大学)
- 臼田裕一郎 (防災科学技術研究所総合防災情報センター)

10月8日(土) 12:50~14:15 セッション2

B2 避難情報①(座長 照本 清峰)

B2-1 避難行動につながる物語形式による災害情報

- 野々山秀文 (セコム株式会社 IS 研究所)

B2-2 南海トラフ地震臨時情報発表時の社会状況に関するオンラインを活用した事前の課題共有手法に関する一考察

- 千葉 啓広 (名古屋大学減災連携研究センター)

野村 一保 (名古屋大学減災連携研究センター)
木作 尚子 (名古屋大学減災連携研究センター)
都築 充雄 (名古屋大学減災連携研究センター)
平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)

B2-3 津波避難キャスターコメントに関する考察 ―南海トラフ地震“未災地”住民対象の定量的調査―
○福本 晋悟 (毎日放送 総合編成局マーケティング・PR 部 (人と防災未来センター 特別研究調査員))

B2-4 国土交通省「水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン」に則した
防災アプリ「ハザードチェッカー」の改良
○有馬 昌宏 (兵庫県立大学)
川向 肇 (兵庫県立大学社会情報学部)

B2-5 観光地の従業員の津波避難の支援対応の課題と責任の認識
○照本 清峰 (関西学院大学建築学部)

10月9日(日) 10:00~11:10 セッション3

B3 避難情報② (座長 本間 基寛)

B3-1 避難情報を巡るマス・メディア報道の Blame フレーム
○川西 勝 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

B3-2 エレベータ停止時に移動困難者を階段で下ろす方法「階段プロジェクト」: 町会による試行
○北村 弥生 (長野保健医療大学)

B3-3 災害情報の取得方法と避難行動の意向一定量調査より年代間の差異に着目して―
○水野 一成 (NTT ドコモモバイル社会研究所)
近藤勢津子 (NTT ドコモモバイル社会研究所)
吉良 文夫 (NTT ドコモモバイル社会研究所)

B3-4 風水害時における宿泊施設への避難意向に関する調査
○本間 基寛 (日本気象協会)
後藤 祐輔 (日本気象協会)
戸谷 洋介 (日本気象協会)
諸原慎之介 (日本気象協会)
牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)

10月9日(日) 11:20~12:30 セッション4

B4 訓練・地域防災 (座長 金井 昌信)

B4-1 大学生を対象とした1泊2日の模擬避難所合宿訓練
○橋本 翠 (吉備国際大学心理学部心理学科)
村上 勝典 (吉備国際大学心理学部心理学科)
坂本 蓮 (吉備国際大学心理学部心理学科)
小川 優太 (吉備国際大学心理学部心理学科)

森井 康幸（吉備国際大学心理学部心理学科）

B4-2 防災諸計画に対する安全保障学の適用 ―精華町防災政策 2019～―

○野村 佳正（精華町役場）

B4-3 内閣府のフォローアップ調査からみる 自治体の防災分野における女性の参画

○南沢 修（長野県長野建設事務所）

秦 康範（山梨大学地域防災・マネジメント研究センター）

小山 真紀（岐阜大学流域圏科学研究センター）

B4-4 覚悟を前提とした地域防災活動の実践アプローチの検討

○金井 昌信（群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター）

横内 基（国土舘大学理工学部理工学科建築学系）

飯島 洋祐（小山工業高等専門学校電気電子創造工学科）

1310 教室

10月8日(土) 10:25~11:50 セッション1

C1 火山・避難意思決定(座長 及川 康)

C1-1 桜島2022年7月噴火クライシスと火山防災対応

○井村 隆介(鹿児島大学共通教育センター)

C1-2 富士山周辺住民の火山防災意識に関する一考察

○小林 晃大(山梨大学医工農学総合教育部)

佐藤 史弥(山梨大学地域防災・マネジメント研究センター)

秦 康範(山梨大学地域防災・マネジメント研究センター)

C1-3 災害時の避難意思決定を促進した認知変数の実証と認知に関係した災害情報に関する考察

○本多 祥大(日本大学大学院新聞学研究科)

C1-4 愛知県南知多町内海海水浴場における観光客の津波避難意識

○石川慶一郎(愛知工業大学地域防災研究センター)

大久保駿也(愛知工業大学工学部)

北川 恭大(愛知工業大学工学部)

賓 俊汰郎(愛知工業大学工学部)

落合 鋭充(株式会社エーアイシステムサービス)

倉橋 奨(愛知工業大学工学部)

横田 崇(愛知工業大学地域防災研究センター)

C1-5 広島ナッジの再々検証~その人にとっての最適ナッジ~

○及川 康(東洋大学理工学部)

10月8日(土) 12:50~14:15 セッション2

C2 リスクの可視化(座長 倉田 和己)

C2-1 緊急消防援助隊における感染防止対策・デコンタミネーションのモデルケース構築を目指して

○河田 慈人(人と防災未来センター)

C2-2 災害デジタルアーカイブの構築と試行的利活用

— “猪の満水”(令和元年東日本台風) 災害デジタルアーカイブ —

○内山 琴絵(信州大学教育学部)

廣内 大助(信州大学教育学部)

横山 俊一(信州大学教育学部)

C2-3 避難場所や避難所に関する情報共有に向けた現状把握

○木作 尚子(名古屋大学減災連携研究センター)

平山 修久(名古屋大学減災連携研究センター)

野村 一保(名古屋大学減災連携研究センター)

福和 伸夫(名古屋大学)

C2-4 神社仏閣の分布と令和2年7月豪雨における久留米市の浸水状況の関係性

- 頼本 侑磨 (福岡工業大学)
- 森山 聡之 (福岡工業大学)

C2-5 新聞記事紙面の分析を通じた1959年伊勢湾台風時の社会動態や社会の空気感の変遷に関する考察

- 倉田 和己 (名古屋大学減災連携研究センター)
- 荒木 裕子 (京都府立大学生命環境科学研究科)
- 田代 喬 (名古屋大学減災連携研究センター)

10月9日(日) 10:00~11:10 セッション3

C3 被害把握・リスク評価(座長 牛山 素行)

C3-1 河川の過去水位データを活用した簡易的な水害ポテンシャル評価の試み

- 松原 悠 (京都大学防災研究所)
- 曹 婉瑩 (京都大学大学院情報学研究科)
- 矢守 克也 (京都大学防災研究所)

C3-2 浸水特性を考慮した安全確保行動に関する情報提供効果の検証

- 植木 有望 (群馬大学大学院理工学府)
- 金井 昌信 (群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター)

C3-3 被害住家数と関係性の高い降雨指標の有効性について

- 小畑 貴寛 (日本気象協会)
- 鈴木 靖 (日本気象協会)

C3-4 人的被害規模から見た2021年熱海土砂災害の特徴(序報)

- 牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)

10月9日(日) 11:20~12:30 セッション4

C4 災害対応(座長 武村 雅之)

C4-1 熱波対策への住民の選好および対策事業の経済的価値 - 米国オレゴン州ポートランド市の事例

- 田中 勝也 (滋賀大学経済学部・環境総合研究センター)
- Jacklyn Kohon (米国ポートランド州立大学高齢化研究所)
- Hal Nelson (米国ポートランド州立大学公共政策学部)

C4-2 住民の相互作用に着目した市街地火災避難の検討 — 関東大震災の体験談分析を通じて —

- 釘崎 理 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)
- 大津山堅介 (東京大学先端技術研究センター)
- 廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)

C4-3 巨大地震への備え 関西圏市街地に居住するシニア層の実態調査

- 宇井 忠英 (環境防災総合政策研究機構)

- C4-4 帝都復興事業と現代の東京：今なぜ首都直下地震に怯えなければならないのか？
○武村 雅之（名古屋大学減災連携研究センター）